

京都発! 社会実装フォーラム

～大学研究とビジネスのコラボレーション～

参加費無料
事前申込制

募集人数50名
申込多数の場合は先着順

大学研究者 事業会社の研究企画職・事業開発職 自治体職員 等 対象

日時 令和6年11月26日(火) 午後3時～午後5時30分

会場 GROWTH(グロース)京都河原町(京都河原町ガーデン8階)



プログラム

14:30～	会場受付開始	
15:00～15:05	開会挨拶	仲筋 裕則 京都市産業観光局 産業イノベーション推進室長
15:05～15:15	「産学連携実装化プロジェクト」概要説明	孝本 浩基 (公財)京都高度技術研究所 地域産業活性化本部 本部長
15:15～15:35	令和5年度「次世代産業×大学発ベンチャー社会課題解決のための技術開発プロジェクト」採択者による発表	「メタン発酵バイオガス発電との融合を目指す気相CO2のその場資源化技術」 宋和 慶盛 京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 助教 「森林バイオマスから高付加価値サステイナブル新素材へ」 西村 裕志 京都大学 生存圏研究所 特定准教授
15:35～16:00	令和6年度「産学連携実装化プロジェクト」採択者による発表	「橋梁の定期点検支援技術の高度化と維持管理プラットフォームの構築」 小椋 紀彦 京都大学 成長戦略本部 インフラ先端技術産学共同研究部門 特定助教 「木材用途膜の潜在劣化の検出による早期診断技術の開発」 寺本 好邦 京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻 准教授 ※「万願寺とうがらしの生産性向上を実現する植物診断Webアプリの開発」 野田口 理孝 京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 教授 「脱炭素・省エネルギーを実現する農業照明用パルス電源LEDの性能評価技術開発」 半場 祐子 京都工芸繊維大学 応用生物学系 教授 「ブランドビーフの安定的生産を可能にする飼養技術開発」 舟場 正幸 京都大学大学院 農学研究科 応用生物科学専攻 教授
16:00～16:30	民間企業による大学との協業事例の紹介	「大阪ガスの産学連携の取り組み」 森田 哲司 大阪ガス株式会社 理事 エネルギー技術研究所長
16:30～17:30	交流会	
17:30	閉会	

申込方法

【締切】 令和6年11月25日(月) 17時

お申込みは下記WEBサイトからお願いします。

<https://www.astem.or.jp/whatsnew/event/20241028-39814.html>



お問合せ

産学連携実装化プロジェクト事務局

TEL (075) 391-1141

E-mail:kkic@astem.or.jp



【主催】 京都市 公益財団法人京都高度技術研究所

【協力企業】



株式会社ジェイ・エス・ビー
ジェイ・エス・ビーグループ

令和5年度「次世代産業×大学発ベンチャー社会課題解決のための技術開発プロジェクト」採択者による発表



宋和 慶盛 京都大学大学院 農学研究科 応用生命科学専攻 助教

「メタン発酵バイオガス発電との融合を目指す気相CO₂のその場資源化技術」

本研究では、「どこでも、誰でも使える、安心安全」な脱炭素技術（生物電気化学的DACシステム）の開発により、空気中から二酸化炭素を高効率で固定化する技術を開発・検証した。酵素-電極界面設計に関する基礎知見を集積し、ガス拡散型電極を用いた気相中二酸化炭素の資源化技術を実現。また、生成物であるギ酸の活用方法を検討し、社会実装に向けた事業化計画を策定。



西村 裕志 京都大学 生存圏研究所 特定准教授

「森林バイオマスから高付加価値サステナブル新素材へ」

本研究では、木材や竹などのバイオマスを活用した新素材開発は地域創生、林業振興、森林環境保全とカーボンニュートラルに貢献する。もっぱら燃焼利用されている「リグニン」を高付加価値素材として創出し、未利用バイオマスから一気通貫の高付加価値化を目指す。

令和6年度「産学連携実装化プロジェクト」採択者による発表



小椋 紀彦 京都大学 成長戦略本部 インフラ先端技術産学共同研究部門 特定助教

「橋梁の定期点検支援技術の高度化と維持管理プラットフォームの構築」

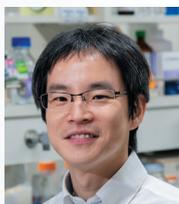
本研究では、橋梁の維持管理を図る点検プラットフォームを開発する。具体的には、360度カメラとLiDARを用いて、動画データから点検した橋梁を地図上で管理できるマッピング機能と、橋梁の復元図面を容易に作成する機能を開発し、点検業務の省力化・省人化を目指す。



寺本 好邦 京都大学大学院 農学研究科 森林科学専攻 准教授

「木材用途膜の潜在劣化の検出による早期診断技術の開発」

本研究では、木材の劣化時期を予測する技術を開発する。具体的には、中赤外分光と機械学習を組み合わせることで、目に見えない潜在的な塗膜の劣化を検出し、木材の劣化時期を予測するものであり、塗り替えコストの削減や環境負荷の軽減、さらには木材利用の拡大にも寄与する。



野田口 理孝 京都大学大学院 理学研究科 生物科学専攻 教授

「万願寺とうがらしの生産性向上を実現する植物診断Webアプリの開発」

本研究では、「万願寺とうがらし」の生産性向上を目的としたシステムのプロトタイプ開発を行う。具体的には、植物診断アルゴリズムを基にしたWEBサービスを開発し、新規就農者でも高度な栽培技術にアクセス可能とすることにより、農業の担い手拡大や生産性向上に貢献する。



半場 祐子 京都工芸繊維大学 応用生物学系 教授

「脱炭素・省エネルギーを実現する農業照明用パルス電源LEDの性能評価技術開発」

本研究では、農業照明の性能評価を行う技術を開発する。具体的には、「炭素安定同位体比」という新たな指標を用いて農業照明の性能評価を行うことにより、作物に最適なパルス幅・波長比率の推定モデルを構築し、エネルギーコストの削減と作物の生産性の最大化を目指す。



舟場 正幸 京都大学大学院 農学研究科 応用生物科学専攻 教授

「ブランドビーフの安定的生産を可能にする飼養技術開発」

本研究では、子牛の高い死廃問題を解決するための技術開発を行う。具体的には、臍帯(さいたい)が太い子牛は死廃が少なく1頭当たりの肉量も多いことから、臍帯が太くなる理由を解明し、飼養技術を開発することで、安定的な繁殖農家経営と上質な牛肉生産を可能とする。

民間企業による大学との協業事例の紹介



森田 哲司 大阪ガス株式会社 理事 エネルギー技術研究所長

「大阪ガスの産学連携の取り組み」

大阪ガスでは2000年代後半からオープンイノベーションに積極的に取り組んでまいりました。その内容や大学連携・ビジネス化の活動として、京都大学さまとのカーボンニュートラルに関する組織対応型の包括的な連携や、弊社からカーブアウトしたSPACECOOL社についてご紹介します。